

山形県酒造組合を2年間でどう変えていくか、私の小さな挑戦の話。

山形県酒造組合 会長
(鯉川酒造株式会社 代表取締役社長)

佐藤 一良氏



今回はお話しする機会を与えていただきまして、誠にありがとうございます。山形県酒造組合を少し変えていきたいと考え、この2年間で心がけていたことを話してみたいと思います。最初に私が取り組みたかったことは風通しのよい組合にしたいということでした。前の会長には多大なるリーダーシップがあり、みんなが安心して「会長一任」とすることが多かったのですが、本来組合員が組合活動をするのは、「義務」ではなくて「権利」なんだと思っていて、組合員の意見を集約できていない状態に危機感を覚えていました。もちろん、その前に私自身がリーダーシップを持ち合わせていなかったことも大きな原因であります。自分の能力問題も含めて、組合員みんなが最上位目標を設定して、それに向かって進んでいくという目標掲げて、組合活動をやっていきたくて思いました。理事会では全員が一回は発言する場面を必ずつくるようにしました。これは理事会で発言することが全体的に進行を邪魔しているのではないかという、大人の配慮は必要ないということをわかっていただきたかったのです。どんな意見でもきかせてほしいと執行部側が聞く姿勢を見せて行けば、必ず貴重な意見がでできます。これらの意見は少数意見かもしれませんが、私はこれらの意見を多数決で審議することを避けました。多数決ではなくて、その問題をみんなで共有してみんな（全員）が納得できる組合の対応をみつけないかと思いました。酒蔵は減り続けています。日本酒市場も大量消費から高級酒志向へ移りつつあり、山形県は県単位でいち早くその変革に挑みました。一緒に頑張ってきた仲間の酒蔵はライバルではなくて同志です。その仲間がいろいろな立場で意見を述べることは組合の財産だと思っています。話を聞く時はディベートをするわけではないので、相手側の土俵に立って話をきくようにしました。そうすることでその酒蔵が抱えている問題や周辺の方々が感じている問題などをみんなで共有できるのではないかと考えました。そして最終的な目標は「誰ひとりとして取り残さないことのない組合」にしていくことでした。私が尊敬している歴代の会長の一人、河北町和田酒造（合）の故和田会長さんは、物事を進める時に「組合員が全員賛成」にこだわりました。部下として仕えてそれを遂行する際にいろいろな諸問題と対峙してきましたが、当時の会長がそこまでおっしゃったことで組合全体が動いていき、日本酒業界では県単位で初の認定となる「GI山形」を取得することができました。その時は感動で胸が熱くなりました。そして国から最初に認定された「GI山形」が今年で10年目を迎えており、秋には山形市で記念イベント

《出席報告》

会員数 47名 出席者数 18名 出席率 38.30%
前回修正47名 出席者数 29名 出席率 61.70%

《メーカーアップ》

鈴木征治 君、大浦英祐 君、平 清美 君、皆川賢治 君
福島 悟 君、小平和広 君、若林智次 君、青木道春 君

を開催する予定です。

私の会長任期2年間は、酒米の値段が異常に高騰して、まさに酒蔵の存亡の危機という2年間でもありました。「誰ひとりとして取り残さない。」という決意を持って、国、山形県、そして酒蔵のある県内市町村と、補助金の可能性があるところへは足を運び、現状を説明してお願いしてまいりました。令和の米騒動は日本酒業界へも多大な影響を及ぼしましたが、今年、休業される酒蔵もなく、在庫の関係で製造計画を見直していた酒蔵でも少量ではありますが酒を醸していたさきほっとしております。2年間の最上位目標は「値上がりした酒米の原価を少しでも下げるために補助金をお願いすること。」でした。まだ補助金が最終決定していない市町村もあり心苦しく思いますが、とにかくきっかけだけは作ろうと思いました。

とりとめのない内容で恐縮ですが、私のやってきたことをまとめると「本当の意味での民主主義（自由の相互承認）を組合運営に取り入れたかった。」になります。多数決では決めない、少数意見をききながら相互理解を高めていく、そして組合の最上位目標を設定してその達成のためにみんなで動いていく。理想論かもしれませんが、山形県酒造組合の酒蔵の皆さんは、意見が合わない方とも酒を飲み交わし、言いたいことは言うという気風があります。現在、山形県酒造組合の特別顧問をやっている小関先生は、山形県内に酒造りの研究及び啓蒙活動のための「研醸会」を発会する際、会の約束事に「悪口は本人の前で言うこと」と明記されました。酒の問題点、批判などは当事者に遠慮せずに面と向かって言いなさい（そのあとのトラブルは自分たちで解決して人間として成長しなさいという意味も込められていると思っています。）ということなのですが、数十年前に発会した研醸会が山形県内酒蔵へ与えた影響は大きなものがあり、その会則的な約束事にこの文言が入っていることは実に誇らしいと思います。私は令和8年5月末の総会で任期が終わりですが、新しい会長さんに代わった場合でも「誰ひとりとして取り残さない組合運営」をお願いして、そうなった時に私自身は相談役として組合に貢献できる機会を与えていただければ有難いと思っています。

最後になりますが、高畠ロータリークラブの皆様、是非会員の2酒蔵を宜しく願いいたします。皆様に愛されてこそその地酒ですので、ご愛飲いただきますようお願い申し上げます。

次回の例会 【 2778 th 】 2026. 6. 4

会員
卓話 高橋 雅明 君

Rotary



Rotary International District 2800
2025-2026 TAKAHATA ROTARY CLUB

WEEKLY REPORT

会長 庄司 薫 幹事 高橋 宏之 例会 毎週木曜 12:30~13:30 割烹 福美屋 事務局 山形県高畠町高畠 911-2-2F tel 0238-52-5440・fax 52-5444

本日の例会 【 2777th 】 2026. 5. 21

高畠町役場 商工観光課

地域おこし協力隊 増田 栞奈 氏

前回の例会 【 2776 th 】 2026. 5. 14

山形県酒造組合 会長
(鯉川酒造株式会社 代表取締役社長)

佐藤 一良 氏

- ・点鐘 12 時 30 分 庄司 薫 会長
- ・ロータリーの目的唱和 齋藤 富義 君
- ・ロータリーソング 「四つのテスト」
- ・ソングリーダー 木村 健彦 君
- ・S A A 島崎 裕司 君

会長あいさつ

庄司 薫 会長

今日のゲストを紹介いたします。山形酒造組合の会長の佐藤一良様にお越し頂いております。今日は奥様にもご一緒にお越し頂いております。後ほど講話をよろしくお願いいたします。

本日も気温が上がり暑くなる予定ですが、ここしばらく夏日が続き暑い日が続くようです。店の庭のバラも本日一輪咲き始め、今年はバラの満開も早くなるようです。

昨日さくらんぼ農家さんに、今年のさくらんぼを注文しましたが、さくらんぼも今年は早まるようだと話していました。ここ数年は夏が早く来て10月くらいまで夏日が続くようになりました。そんな中、アスリートラボの池田めぐみさんからの企画で、米鶴さんの甘酒と高畠産のブドウを使った、熱中症予防のシャーベットを弊社で作り販売することになりました。3社のコラボ商品です。暑い中、身体の中から冷やすのも熱中症対策になるようで、アスリートだけではなく、幅広い年代の方々に熱中症予防として利用していただきたく思っています。これからプレスリリースをかけ、販売へと行く予定です。是非クラブの皆さんにもご試食頂きたいと思っています。

これから、暑い日も続きます。熱中症には気を付けてお過ごしください。

《会長の時間》

特別養護老人ホーム「はとみね荘」様へ寄付金贈呈
（「はとみね荘」施設長 安部芳泰様から謝辞頂きました）

《幹事報告》

高橋 宏之 幹事

1. 先週「第6グループIM」への追加で参加申込投票させてもらい、投票ありがとうございました。参加者の内、急遽1名の欠員が出ましたので、都合の合う方は参加申し出て下さい。参加者へは、集合場所、時間は後でご連絡致します。
2. 5月24日(日)の白鷹RC60周年記念式典には7名参加登録をしました。参加者へは、車でお迎えに行きますので後で個別にご連絡致します。

《委員会報告》

親睦活動委員会 齋藤 富義 委員長

1. 最終例会の追加のご案内。

当日車乗り合いで移動希望の方へ集合場所、時間をグループLINEで掲載しますので投票お願いします。多くの方の出席を再度お願いします。

スマイルBOX

- ・山形県酒造組合会長来訪に感謝と台湾米で造った清酒でコンテスト金賞受賞

梅津陽一郎 君

- ・山形県産酒を有名にして頂いたのは、今日お越しの佐藤会長のご尽力のおかげです。

相田日出夫 君

- ・本日の「はとみね荘」への寄贈ありがとうございました。

高梨 正章 君

- ・佐藤会長とは青年会議所から30年ぐらのお付き合いさせて頂いてます。

本日はご来訪ありがとうございました。

小平 和広 君

- ・佐藤山形県酒造組合会長のご来訪ありがとうございました。

土屋 衛 君

- ・本日の講話を佐藤会長にご依頼し、快く引き受けて頂きました。ありがとうございました。

後藤 隆暢 君